



全国でただひとつの医科大学附属高校です

川崎医科大学附属高等学校

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂1661 phone086-462-3666
http://www.kawasaki-m.ac.jp/highschool/

川崎医科大学 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 phone086-462-1111
川崎医科大学附属病院 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 phone086-462-1111
川崎医療福祉大学 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288 phone086-464-1004
川崎医療短期大学 〒701-0194 岡山県倉敷市松島316 phone086-464-1033
川崎リハビリテーション学院 〒701-0192 岡山県倉敷市松島672 phone086-462-1111



白衣のイメージは「清潔」。
いつかあれを着て、父と一緒に働きたい。

1990年生まれ
川崎医科大学附属高校3年
福満研人さん
Kentaro Fukumitsu

腕を磨くこと。いろんな現場を見ること。
ドクターの道に、ゴールはない。

「私たちの高校時代は、やはりハードな勉強の毎日でした。でもその反動か、大学に入ってからいろいろとハメを外したものです。でも、そういう経験も無意味じゃなかった。友だちや先輩たちと付き合う。失敗する。そんな泣き笑いの経験がドクターを成長させてくれるんです」

川崎医科大学附属高校は、全寮制。規則正しい生活だが、そのなかで研人君は、部活で汗を流したり、バンド活動を楽しむなど、ほどよく青春を謳歌している。

「父の白衣を見ると、まず『清潔』という言葉が浮かびます。あれを自分も着るのかと思うと、重圧を感じますが、将来はやはり父と一緒に働きたいですね。できれば外科医として」

そう息子と言った。が、父の意見はいささか異なる。
「医師になっても、すぐには戻って来てほしくないですね。まず、救命などで腕を磨くこと。それからしばらくは、よそのメシを食ってみる。外国に行くのもいい。いろんな現場を経験して、本物のドクターになって帰ってきてほしい。非力な医師は、病院のお荷物になるだけです。公私混同は禁物です」

と言い切った顔は、医療法人を率いるトップのそれだった。日々、医療の現実と向き合う厳しい瞳。その視線が、息子を見守っていた。

一緒にいても、離れていても、 命を見つめる視線は、変わらない。



しばらくは、よそで修行すること。
本物のドクターになるまでは、
戻ってきてほしくないですね。

1942年生まれ。九州大学医学部卒。医学博士。
70年、福岡市で福満クリニック（現ふくみつ病院）を開業。血管外科と透析の専門医として腕を振るうとともに、医療法人会連会の理事長も務めている。
福満東馬さん
Tomma Fukumitsu

医師に求められるのは、
人の痛みや苦しみを理解する心。

「医師になれ」などと、言ったことはなかった。ドクターは、特別な仕事だ。一生を勉強と努力に捧げる覚悟が求められる。
昼夜を分けず努力し、常に技術と誠意を尽くして患者に接する。が、そこまでしても、思いもよらない結果に身をよじることがある。そんな現実を知り尽くしている父は、息子に自分と同じ道を歩めなどと軽々には言えなかった。
福満東馬さんは、血管外科と透析の専門医。命の現場で腕を振るうかたわら、福岡市で4つの医療施設を展開する医療法人「福満会」の理事長を務めている。
「医療は、部品の修理じゃない。相手はあくまで人であり、その命を守り、生活を良くするのが仕事。そのためには、知識や技術だけでなく、患者さんの痛みや苦しみを理解する。心」が求められる。息子に伝えたいのは、まずそれですね」

失敗もいい。泣き笑いもいい。
そのすべてが医者を大きくする。

息子の研人君は、17歳。福岡の親元を離れ、岡山で暮らしている。彼が通っているのは、川崎医科大学附属高校。全国で唯一の「医師をめざすための高校」である。

03
STORY OF DOCTOR'S ROAD
親と子の
ドクターロード